人づくり まちづくり 情報誌

あくてぃぶ

No. 78
令和5（2023）年
9月15日号

わがまちたかつき
切り絵紀行

「コスモスの里」（中畑）
切り絵 作：生地 高芳（高槻市在住）

特集

世界中のこどもみんなに平和としあわせを

「あくてぃぶ」は行動的、活動的な心と心のふれあいを求めて名づけられました

第37回 平和展

～世界中のこどもみんなに平和としあわせを～

戦争は最大の人権侵害です。しかし、今なお世界では戦争が行われ、この瞬間にも人の命が失われています。とりわけ、戦争は子どもたちへの影響が大きく、子どもの夢や希望、生命をも奪います。

原爆の恐ろしさや戦争の悲惨さ、平和の尊さを次世代へ継承し、核兵器のない平和な世界を目指す意識を高めることを目的として、8月3日（木）～4日（金）の2日間にわたり、高槻市立生涯学習センターで「第37回平和展」を開催し、約1,000名の来場がありました。

ドキュメンタリー映画「いわさきちひろ ～27歳の旅立ち～」を上映

（監督：海南（かなと） 友子（ともこ）さん）

▲海南友子さんのお話に
約200名の方が耳を傾けました

黒柳徹子さんの自伝的小説「窓ぎわのトットちゃん」の挿絵でも知られ、今も世代を超えて愛され続けている画家いわさきちひろ。彼女の人生が波乱に満ちていたことは、あまり知られていません。本作は映画監督で、いわさきちひろ記念事業団代表理事でもある山田洋次氏がエグゼクティブプロデューサーを務められました。誰もが知っている絵本画家の、誰も知らない波乱の人生を、黒柳徹子さん、髙畑勲さんら、ちひろから影響を受けた50人の証言を元にひも解くドキュメンタリー映画を上映しました。

講演会『戦火の子どもを描く　いわさきちひろの人生と絵』

講師：海南 友子さん（ドキュメンタリー映画監督）

ドキュメンタリーの撮影で、4年かけて生前のちひろを知る50名を訪ね歩きました。ちひろはまるで「鉄の棒に真綿をくるんだような人」と語る方が多数おられました。見た目は「ふわっ」として優しく見えますが、中に強い信念があるという意味です。

ちひろの絵はさくたんの方に愛されていますが、本格的に志したのは戦争で家も仕事もすべて失ったどん底の27歳でした。黒柳徹子さんも、「敗戦の体験がなかったら、絵本画家ちひろは生まれなかったかもしれない」と語っておられます。

終戦後ちひろは、戦争中でも戦争に反対していた人がいたこと、日本が外国でしたことを知ることで、さまざまな強い思いが高まり、絵本画家として再出発をしました。

作家になった後、彼女の強い信念を表すエピソードとして、原画の著作権があります。当時、原画は出版社が使用後に廃棄していました。文には著作権があるのに、なぜ絵には無いかと疑問を持ったちひろや仲間たちは訴え続けました。やがて著作権が成立し、ちひろ美術館には原画が約1万点も残されています。

平和を愛したちひろは、ベトナム戦争をテーマに「戦火のなかの子どもたち」や、広島の原爆を描いた「わたしがちいさかったときに」などを残しています。どちらも戦争がテーマですが、悲惨な場面を描くのではなく、戦争で子どもたちが奪われるものを描いていきました。それらの原画を映画で撮影しましたが、一枚一枚の原画に込められた彼女の思いを強く感じ、心を動かされました。

どんな問題でも、初めの第一歩を始める人がいないと世の中は変わりません。今日、始めた第一歩が100年後の世界を作ります。平和で核のない世界への第一歩を。

参加者の声

- ちひろさんのことを深く学べました。非核都市宣言のある高槻市。戦争が起きないことを深く祈ります。
- ちひろさんの生き方がわかってよかったです。絵の事しか知りませんでした。戦争について学び、日々の今の生活に感謝の心を感じました。

特別展示「いわさきちひろ　平和パネル展」

ちひろは戦争では一番弱いものが犠牲になると痛感し、ベトナム戦争が激化していくなかで、戦争をテーマにした絵本を手がけました。戦争のなかで生きる子どもの懸命な姿、未来を失い絶望した表情、あどけない赤ちゃん、生命力に満ちた子どもの姿、戦禍のなかで生きることを余儀なくされた子ども等の中に、かけがえのない命や平和の大切さ、それを守りたいという切実な思いが込められています。その中から「戦火のなかの子どもたち」「わたしがちいさかったときに」「夏の子どもたち」の合計20作品を展示しました。

▲見慣れない黒の単色で描かれたちひろの絵に、足を止める来場者が多く見られました。

参加者の声

- いわさきちひろさんが、子どもたちの絵（戦争）で伝えて下さることで、情景が想像できて、涙が出そうになりました。毎日平和に暮らせることに感謝しないといけない。子どもたちを連れて来れて良かったです。
- かわいい感じの絵しか今まで見たことがなかったので、びっくりしました。こういう機会に改めて戦争について考えることができました。
- 戦争の恐ろしさや悲しさを感じました。ちひろさんが戦争の体験とともに絵を描かれていることを初めて知りました。

映画会「太陽の子」

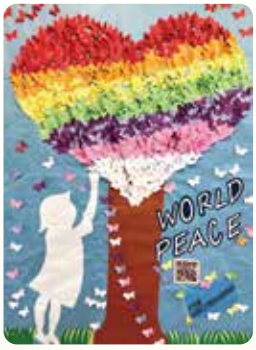
第二次世界大戦の戦況が激化する中、軍から密命を受けた京都帝国大学物理学研究所の若き科学者たちと研究員たちは、その破壊力の恐ろしさを知りつつも「今研究しているものが完成すれば、戦争は終わる。世界を変えられる」と信じ、国の未来のために開発をすすめていた…。

日本にも存在した「原爆開発」における研究者の葛藤と、戦火に翻弄された若者たちの青春を描いた作品を上映しました。哀しみとむなしさが残された戦争に、どれだけ多くの国民の人生が狂わされたのかと考えさせられました。

参加者の声

- 大きな戦争の渦中には、名もない人々の何気ない生活があり、思いや愛情があふれている。何より一人ひとりの輝かしい未来があったはずなのに…。戦争は絶対行ってはいけないこと。
- 映画には戦闘シーンは少ないが「生きたい」という気持ちを奥底に秘めながら死に向かわざるを得ない息子と、それを見送る母の別れのシーンに戦争の理不尽さを切なく感じた。
- 戦争を語りつぐ世代が減っていく中、このような映画を上映してくださることで風化されるのを少しでも防げたら、と思います。

常設展示



「学童保育指導員による作品」コーナー

平和展にご来場していただいた記念になるように、映えスポットを用意しました。多くの方に記念撮影をしていただきました。

「原爆の被害パネル」コーナー

昭和20年8月6日午前8時15分、広島に投下された原子爆弾はウランを用いたもので、小型であったために「リトルボーイ」と呼ばれていました。会場では実物大模型と、原爆が投下された後の広島、長崎の様子を写した写真パネル等を展示しました。訪れた方に、高槻市原爆被害者の会の語り部さんに説明をしていただきました。

「平和の木のメッセージ」コーナー

それぞれの平和への願いを書き込みました。

模造紙9枚分の大きな平和の木は、平和への思いが書かれた木の葉でいっぱいになりました。

「折り鶴」コーナー

平和への願いが込められた折り鶴がたくさんできあがりました。寄贈された折り鶴は、広島の平和記念公園内にある「原爆の子の像」に捧げさせていただきます。

あちこち訪問・社員研修

ウトロ平和祈念館を訪れて

館内いっぱいにメッセージが込められている。

訪れたウトロは、長い歳月の間、日本社会から「置き去り」にされ、劣悪な環境と在日朝鮮人への差別があり続けました。ここには様々な困難に直面しながらも声を上げ続けた住民と、ウトロに寄り添ってきた日本人と在日、韓国の市民が協力して、人々の尊厳と生活を守ってきた歴史があります。そしてこの歴史には、よりよい社会、あたらしい未来へのヒントがあることを学びました。

京都府宇治市ウトロ地区に建つ、真新しい「ウトロ平和祈念館」は、隣接する地元中学校や、陸上自衛隊駐屯地の敷地より一段低くなった立地に道路が整備され、新しい住宅が並ぶ中にありました。正面手前にみんなが集える広場があり、右横には当時の飯場が移築されています。「ウトロ」という地名は江戸時代の検地帳等には「うど口」「宇土口」と書かれており、この地名の口（くち）をロ（ろ）と呼んで、「ウトロ」とカタカナで書かれるようになったのは20世紀になってからです。

1940年に京都飛行場と軍用機生産工場の建築が始まったのがきっかけで、韓国・朝鮮人が集住するようになった「ウトロ地区」。日本の軍需工場や飛行場の建設などで働けば、徴用が免除されるということで、日本の各地から集まってきた朝鮮人の数は、ピーク時は労働者2,000人のうち、1,300人が朝鮮人だったそうです。労働者とその家族の簡易宿泊所としてウトロ内に飯場が建てられ、女性はこの飯場で炊事係として働いている人も多かったようです。館内の所せましと並べられた民具や、画面いっぱいの笑顔の写真には、地区を守り、地域の子どもたちを守ってきた、オモニの生き様や民族の誇りが溢れていました。

また、館内の資料見学とあわせて、周辺地域のフィールドワークを行いました。インフラが整備されず、大雨が降るたびに冠水するような、劣悪な衛生環境での生活を余儀なくされたことが容易に想像でき、そう遠くではない歴史の話を肌で感じることができました。ヘイトの標的となり、朽ち果てた放火跡地の解体にあわせて家々の解体工事が始まり、朝鮮スラムと呼ばれた往時の町並みが変わっても、「人権と平和」という普遍的価値から、歴史の教訓を新しい未来に生かしていかなければと思う一日でした。

◀上水道が敷設されてまだ35年。復興期にもウトロだけは上下水道が整備されず、周辺地域からも「取り残されたまち」でした。

ウトロ平和祈念館 副館長　金（キム）　秀煥（スファン）さんの話から

偏見・差別・対立からは何も生まれません。それらを乗り越えて出会うこと、つながることで小さな統一が生まれ、新しい未来をつくっていけます。歴史問題もナショナリズムではなく、人権の問題としてとらえることで連帯し、つながることができます。ウトロという地域を守り抜いた人々の姿を通じて、人権と平和の大切さ、共に生きて出会う事のすばらしさを感じていただけることを切に願っています。

当日は副館長の金さんから館内資料の説明と平和へのメッセージをいただきました。▶

参加者からの感想

- 副館長の「ウトロに生きる。ウトロで出会う。立場や環境が違っていても、さまざまな人達と出会う場所であり、その出会いがこれからの問題を考えるきっかけになる」という強い信念に心打たれた。
- 2021年に起きた放火事件は、ネット情報で得た、あさはかな知識で犯行に及んだという。あってはならない事件だ。高槻では以前、年に一度在日コリアンの「夜遊祭」という祭りがあった。チャング演奏や、民族舞踊、焼肉やキムチの食を通した国際交流の場になり、楽しみに参加していた。ウトロ地区を見学し、「夜遊祭」のことを懐かしく思い出した。
- ２階の展示室に当時の住民の部屋を再現展示されたコーナーがあった。そこで、等身大パネルの君子さんに出会い、温かい笑顔に引き付けられた。そして、小中学校時代に机を並べた在日の友人のことを思いだした。その友人は中学校の頃、家族で大阪へ引っ越し、離ればなれになったが…。ウトロで出会った温かさが、友人との旧交を取り戻したいという思いを強くしてくれた。
- １年前からの願いが叶って、やっとウトロ訪問となった。貧困や差別に苦しんだ中、この地を守るために、声をあげ続けた「ウトロに生きた人々」の歴史をたどっていった。
  理解にうとい頭ながらも「耳ダンボ」で聴いた本日の収穫は、ナビゲーターさんの言われた「常識からの逸脱」という表現でした。私自身アレルギー体質で、性格的にもマイノリティーのせいもあってか、ことさら胸にひびいた。
  「 」（カッコ）付きの「権力者」に物わかりのいい人間ではなく、多様性に富んだものの考え方が、ウトロの人々を「笑顔」へと導いたのではないだろうか。多様性、なんと耳に心地よいのだろう。一番好きな言葉だ。

放火跡にて。事実を知ることと、差別や偏見に基づく犯罪「ヘイトクライム」を取り締まる法律が必要と認識しました。

２階展示場の君子さんの部屋。円卓には来客のための食べ物やビールが並んでいました。いつも挨拶は「ご飯食べたか？」だったそうです。その背面の壁には、床上浸水の跡が残っていました。

ウトロ平和祈念館（近鉄京都線「伊勢田」駅）

平和祈念館は３階建て、１階はコミュニティスペース、２階と３階が展示場になっている。２階には生活用品や床上浸水していたころの住宅の再現などの常設展示が並び、３階は企画展が催されている。ウトロ住民のそもそもの願いは戦うのではなく、みんなの心が平和になって、みんなが仲良くなることを願う、そういうことを祈念するという意味で「祈念館」と名付けられたそうです。

一部を移築して再現された飯場

◉お問合せ　TEL. 0774-26-9222　E-MAIL：info@utoro.jp
◉開館日時　金・土・日・月曜日　10：00～16：00　※火曜日は団体案内（要予約）
◉入館料　一般500円　高校生以下100円

人権講演会 心の豊かさを求めて

▲講師の原 清治さん

インターネット社会と人権

～コロナ禍で子どもたちに何が起こっているのか～

６月３日（土）14時から市立生涯学習センターに、佛教大学副学長、原（はら） 清治（きよはる）さんをお迎えして「インターネット社会と人権 ～コロナ禍で子どもたちに何が起こっているのか～」と題し、講演会を開催しました。教育社会学の第一人者である講師から、時にはユーモアを交え、多くの具体例を引きながらのお話があり、楽しくて学びの深い時間となりました。

●講演会より

コロナ禍で子どもたちに流行したオンラインゲームの影にある危険性の一つとして、課金を使ったいじめがあります。多くは水面下で、課金で得たギフト（強いキャラクター・武器など）を弱者はむしり取られるので、親や教師は、なかなか気づけません。またある人が「ユニバ　なう！」(＊1) と自分の写真を投稿したら炎上しました。原因は投稿した本人ではなく、投稿を見た人の嫉妬や妬みです。ネット上に悪口を書いてはダメという常識はもっていても、悪気ない投稿が、人の逆鱗に触れることがあるということも知らなければなりません。

子どもの人権を守るためには「安全・安心な環境づくり」が大切です。人と人とが目線を合わせ、肌を感じる距離で意見や考えを聴く姿勢を大切にすることにより、相手の意見を尊重しながら、対等に自己主張できる力「コミュニケーションスキル（アサーション）」を身に着けることが重要です。　（＊1）「ユニバーサルスタジオジャパンに　今いるよ」の意味

●感想文より

- インターネットは急速に発達し、子どもから大人まで利用でき、進歩の一途をたどっています。しかし、特に人間形成の過程にいる子ども達に弊害が見えてきています。子どもから大人まで、全ての人にやさしい社会づくりに知恵をしぼりたい。
- ネット用語を知らない私でも楽しく学べました。孫が生きていく社会の現実を知ることができ、アサーティブ、アドバイスできそうです。
- コロナ禍でのネット社会にたくさんエピソードを絡めて話してくださり、大変面白かったし、勉強になった。まさに多様性の時代と実感した。

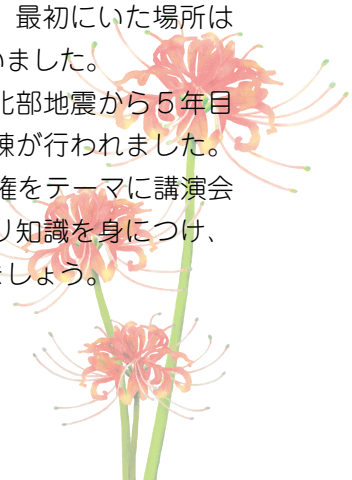
コラム 東日本大震災からの教訓「津波てんでんこ」

高槻市人権まちづくり協会人権啓発指導員　藤澤 善富

「津波てんでんこ」とは、海岸で大きな揺れを感じた時は津波が来るから、各自てんでんばらばらに一刻も早く高台に逃げて、自分の命を守れという東北地方に伝わる昔からの教えです。てんでんばらばらとは、自分勝手にとか、人を押しのけてでも逃げろという教えではありません。まず、自分の命は自分で守ることを頭におきながら、目の前にいる人と声をかけあい、助けあいながら避難するという自助・共助の考えが生きているものです。この考えは防災の要になります。

この「津波てんでんこ」をもとに、日頃から訓練をしていた釜石市の小中学生の避難行動が学校にいた全員が助かるという「釜石の奇跡」として有名です。通常の避難訓練では、運動場に整列、点呼を行い全員の安全を確認します。ところが、釜石東中学校ではその日「点呼などとらなくてもいい。避難所へ走れ！」と副校長が大声で叫び、それぞれが避難場所の高台へ向かったそうです。校舎の３階へ避難していた小学生たちも、「津波が来るぞ！」と叫びながら避難する中学生を見て、高台への移動を始めました。その途中で中学生が小学生の手をひく姿も見られたそうです。そして、最初に避難した高台の裏がくずれているのを見た中学生が、ここは危険と判断し、さらに高い場所へ全員で移動しました。最初にいた場所は津波が到着して流されてしまいました。

高槻市においても、大阪府北部地震から５年目に当たる今年、全域大防災訓練が行われました。当協会もこの12月に災害と人権をテーマに講演会を開催します。まずはしっかり知識を身につけ、日頃から意識をもって行動しましょう。



人権週間記念事業

人権を考える市民のつどい

テーマ「災害と人権」

講演会

講　師　正木（まさき）　明（あきら）さん（気象予報士、防災士）

日　時　令和５年12月９日（土）
14時～（開場：13時30分）

会　場　市立生涯学習センター ２階 多目的ホール

定　員　申込順 300名

申込期間　11月６日（月）～12月４日（月）

入場料無料

保育あり（要・事前申込）

手話・要約筆記あり

人権啓発作品を募集します

令和４年度絵画の部最優秀賞▶

21世紀を「人権の世紀」とする取り組みが進められる中、市民一人ひとりが人権問題を「自分の問題」として捉え、お互いの人権を尊重し合う高槻市を築いていくことを目的に、人権啓発作品を募集します。奮ってご応募ください。（主催：高槻市）

1. 募集対象（各部門）

※応募作品は未発表のオリジナル作品に限ります。原則、各部門一人1点とします。

❶作文（読書感想文を含む）➡400字詰め原稿用紙**４枚以内**。
❷標語➡形式･長さは自由。
❸絵画（ポスターを含む）➡**手書きの場合**：用紙サイズは画用紙**4つ切以内**。
パソコン作成の場合：用紙サイズは**A2サイズ以内**。

2. 作品テーマ：人権･平和に関わるテーマ

※下記はテーマの一例です。

●人権の尊さ　●お互いの人権を守ること　●平和　●いじめをなくそう　●インターネット上の人権侵害
●差別のないまち　●国際理解　●多文化共生　●LGBTなどの性的マイノリティ／性の多様性
●命の大切さ　など

3. 応募資格

市内に在住または通勤･通学･通園する人

4. 募集期間

令和５年７月３日（月）～10月13日（金）必着

5. 応募方法

応募票に必要事項を記入し、作品の裏面へ貼り付けて郵送するか、直接応募してください。

応募票ダウンロード➡高槻市人権まちづくり協会ウェブサイト　https://www.takatsuki-jinmati.org

6. 表彰･展示

入選者の表彰式は12月９日（土）に予定しています。入選作品は市立生涯学習センター1階･展示ホールで12月８日・９日の２日間展示します。また、12月から来年２月にかけて市内公共施設を巡回し、展示します。

7. 応募･問合先

（詳細はホームページhttps://www.takatsuki-jinmati.orgをご覧ください）

一般社団法人高槻市人権まちづくり協会　高槻市城北町1丁目14-6 荒木ビル3階
電話：072-647-7825／ファックス：072-647-7233

詳しくはこちらから▶

人権連続講座を開催します

参加費無料

手話通訳 要約筆記 あり

様々な人権課題をやさしく楽しく学べる講座です。（1講座のみの参加でも可能です）

■会　　場　クロスパル高槻（総合市民交流センター）7階 702会議室
　　＊JR高槻駅中央出口の南側出てすぐ
■定　　員　各回申込順100名
■申込期間　９月４日（月）朝８時45分～各回定員に達するまで（土・日・祝のぞく）
■申し込み　（一社）高槻市人権まちづくり協会（下記まで）

第1回　9/29（金）14時～

中川（なかがわ） 佑希（ゆうき）さん　オフィスゆうき代表　テーマ 障がい

誰もが自分らしく暮らせるまち ～心のバリアフリー～

障がいに関わらず、生きていれば誰でもピンチや困りごとの障壁の前に立たされます。
自分の経験を通して、当事者の本音で「共に生きること」をお話いただきます。

第2回　10/6（金）14時～

金（キム） 秀煥（スファン）さん　ウトロ平和祈念館副館長　テーマ 平和・ヘイトスピーチ

ウトロで終わらないウトロの話 ～分断よりつながる世界～

土地明け渡し問題やヘイトの標的となった「ウトロ地区」。幾度となく困難を乗り越え、歴史の問題を人権の問題として教訓を生かし、平和を願い続ける言葉を伺います。

第3回　10/13（金）14時～

藤戸（ふじと） 裕子（ひろこ）さん　ミナミナの会代表　アイヌ文化活動アドバイザー　テーマ アイヌ・多文化共生

アイヌの文化にふれる・学ぶ

独自の文化を否定され追いやられた歴史だけではなく「アイヌのことを、多くの人に知ってもらいたい」。
文化や学びのお話と民具の展示や、音楽、 歌もお楽しみください。

第4回　10/20（金）14時～

柴谷（しばたに） 宗叔（そうしゅく）さん　性善寺（しょうぜんじ）ご住職　テーマ 性・LGBT

LGBTの人々が集うお寺のご住職が語る ～悩んだ末に至った心の有り様～

「自分らしく、ありのままに生きる」ことは当事者にとって簡単なことではありません。
ご自身の体験や、相談を通して、お話いただきます。

第5回　10/27（金）14時～

越山（こしやま） 茂代（しげよ）さん　つぐみ助産院院長　テーマ 男女共同参画・女性

ライフステージの変化と女性の健康課題 ～より良いサポートで誰もが毎日いきいきと～

月経前症候群など、女性特有の健康課題は周囲の理解が不可欠です。性ホルモンバランスの乱れでハッピーとは言えない長い老後を迎え過ごす事もあります。良きサポーターを目指して学んでみませんか。

＼遊びに来てね！／

フェスタ・ヒューマンライツを開催します

２日(土)は前夜祭
「絆」による和太鼓スペシャルステージがあります。

舞台発表・展示会・模擬店やクイズラリーなどお楽しみが盛りだくさん！

■日　　時　12月３日（日）９時～15時
■会　　場　市立富田ふれあい文化センター（高槻市富田町4丁目15-28）
　　TEL：694－5451

春日では８月19日・20日にヒューマンライツフェスタを実施しました！
たくさんのご来場をありがとうございました。

編集後記

先日、孫の「七五三」の写真が届いた。真顔に、よそ行きの貸衣装で緊張気味のポーズは、なんともかわいい。私の育児中には、忙しさにかまけて、記念写真は残してこなかった。子どもの頃の息子は勉強が苦手、問題行動も多かったが、大人になると体を動かすことは苦にならず、よく働き、結婚も早く、子どもにも恵まれたけれどバツイチになった。

一緒に入っていた新しい家族写真には、和服姿の息子が写っていた。着慣れない衣装に照れているのか、可愛い孫の横で表情はかたく気難しい。

今回、健やかな孫の成長と共に、新しい家族に幸多かれと密かに願った。

編集発行／一般社団法人　高槻市人権まちづくり協会（☎647-7825）

「あくてぃぶ」は協会ホームページからもご覧になれます。
https://www.takatsuki-jinmati.org/ 高槻市人権まちづくり協会 検索

Follow Me!! Instagram takatsuki.jinmati